

総選挙で、日本共産党を支持して下さった有権者のみなさん、 コロナ危機のもと、大奮闘していただいた支持者、後援会員・ サポーター、党員のみなさんに、心からの感謝を申し上げます。

党創立100周年を、新しい政治変革のうねりのなかで迎えられよう、
参院選勝利をめざす宣伝・組織活動と、強く大きな党をつくりあげる
仕事に、ただちに足を踏み出します。

総選挙の結果について

2021年11月2日

日本共産党茨城県常任委員会

(1)

10月31日に投票された衆議院選挙で、日本共産党は10議席（比例9・選挙区1）を獲得しました。

比例代表では、416万票（前回440万票）、得票率7.26%（前回7.9%）でした。茨城県では70797票／5.66%（前回75329票／6.09%）と前回比で得票数、率とも後退しました。こうしたなかで、6市2町1村で比例得票を前進させました。

選挙区は、289選挙区のうち214選挙区で「野党一本化」を行い、沖縄1区で赤嶺政賢候補が議席を獲得したのをはじめ、全国62の選挙区で、野党共闘候補が激戦に競り勝ち、

共闘の効果が示されました。県内で日本共産党が支援した1区（無所属）、2区・3区・6区・7区（立憲民主党）の共闘候補のうち、1区で競り勝ち、6区、7区で比例復活を果たすことができました。

(2)

日本共産党は、「安倍・菅政治を継承する」とした岸田自民・公明政権を変え、「野党共闘で政権交代」をかかげたたたかいました。衆院選公示日から、「野党一本化」「政権交代が焦点に」など新聞各紙に取り上げられ、「自民党政治の転換」が大きな争点となりました。

9年間続いた安倍・菅政権は、立憲主義を壊し、「森友・加計桜」問題など国政を私物化してきました。新型コロナ対策で、「自粛・自助」を国民に求めるなどの新自由主義を柱にした自民党政治に対し、日本共産党は「4つのチェンジ」——暮らし充実、気候危機の打開、ジェンダー平等、平和・外交——を政策にかかげたたかいました。

茨城県党は、とりわけ首都圏唯一の東海第二原発の再稼働ストップ・廃炉や、米価の大暴落に対し家族農業を守ることなど、県民要望の実現を訴えてきました。

(3)

選挙戦を通じて、日本共産党の政策が届いたところでは、強く共感が寄せられました。引き続き公約実現へ、全力をつくす決意です。

本共産党の野党4党と、20項目にわたる政策合意を結び、さらに立憲民主党と日本共産党の党首が政権協力で合意するなど、2015年の安保法制の成立から始まった野党共闘の流れは、「野党連合政権への合意と候補者一本化」へと大きく前に進んできました。

県内各地で、多くの連帯の絆が広がったことも、今後に生きる大きな財産です。日本共産党茨城県委員会は、引き続き、市民と野党の共闘の発展のために力を尽くします。

(4)

今回、自民党政治の矛盾が集中する県北地域で、茨城4区（比例重複）に大内久美子副委員長、5区に飯田美弥子弁護士の名の党公認候補を選挙区候補に立てたたかいました。特に、運転開始から40年を超える東海第二原発の再稼働ストップ、廃炉を求める県民の声にこたえることは喫緊の課題となっています。

め全力をつくします。とりわけ党の自力をつけ、世代的継承の活動にとりくんでいきます。また、日本共産党の綱領や歴史、理念を丸ごと知っていたただく努力を強めていくことが必要だと感じています。皆さんのご意見をお寄せいただき、県委員会として総括を深め、今後の活動に生かします。

来年、日本共産党創立から100周年を迎えます。夏の参院選、暮れの県議選で躍進するために、強く大きな党づくりへ新たな決意でとりくみます。



日本共産党

